

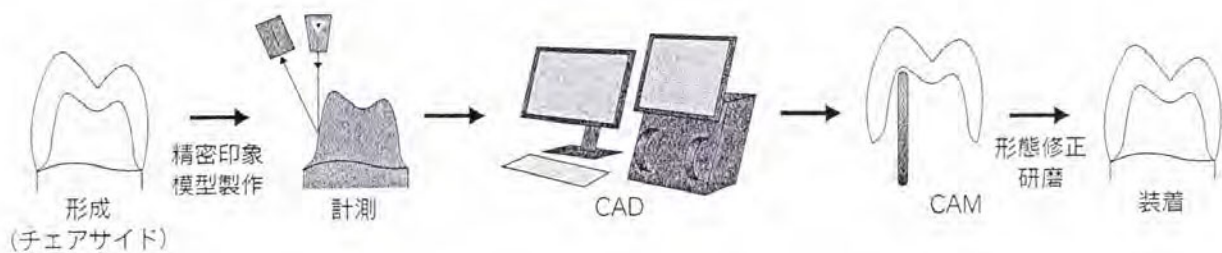
グリーティング

明るい光に誘われて、ふらーっと散歩に出掛けるのが、私の一番の楽しみです。厳しい寒さの中ですが、もう梅が咲いていますし、葉のない枝には小さくかわいい芽吹きも見られます。植物たちは太陽の光に反応して、近づく春の到来を知らせてくれています。そして、鳥たちのさえずりが遠く近くに聞こえるのも嬉しいことです。たまたま、自然の多い所で暮らしているの、歩くだけでゆったり至福のひとときを過ごせます。ありがたいことです。マフラー、手袋でしっかり防寒して冬晴れの光の中を歩いてみませんか？思いがけない発見で、気持ちがほっこりあたたまるかもしれませんよ。S.K



技工情報

◎「CAD/CAMシステムの制作の流れ」の続き



■CAD/CAM冠の製作方法

通常の金属を使用した補綴物の製作と同様に模型の製作まで行います。その後は支台歯を含めた模型の外形を非接触式のスキャナーでスキャンし、デジタルデータ化を行います。その後、コンピューターのモニター上で模型の3次元形態を再現し、バーチャルなワックスアップを行います。コンピューター上で設計されたデータを通常はSTLデータで出力を行い、CADソフトに受け渡します。CAMソフトでは加工用データを自動作成し、データをミリングマシンに送り加工の工程に入ります。選択した材料ブロックから自動的に短時間で補綴装置を切削加工します。その後、技工士が形態修正・研磨作業を行い補綴物の完成となります。

加工の工程における補綴装置内面の切削は、ミリングバーで行うために支台歯のアンダーカットの再現を行う事は出来ません。又、ミリングバーの直径以下(多くは1mm)の鋭角な部分の再現が出来ないため、制度の良い補綴装置を制作するためにはこれらのミリングマシンの性質をよく理解した上で支台歯形成に臨むことが重要になってきます。

この様に補綴物の内面をミリングバーにて形成を行うので支台歯の表面性状が重要になってきます。(アンダーカットがあると再現できません。)又、支台歯の削除量不足は補綴物の強度低下を招き将来的には破折や脱離の原因になってしまいますので、出来るだけ下図の形成量に沿った支台歯の形成をお願いいたします。